

科目名	音声障害			授業の種類	演習	講師名
授業回数	15 回	時間数	30 時間 1 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期 ST2年 前期
【授業の目的・ねらい】 音声障害の定義、種類、病態と疾患、臨床について理解できる。						
【実務者経験】 厚生連小諸厚生総合病院、医療法人協和会、金沢大学医学部付属病院、兵庫医科大学病院、伊丹恒生脳神経外科病院、シャローム訪問看護ステーション、関西電力病院（現任）において、言語聴覚療法の臨床に従事。						
【授業全体の内容の概要】 音声障害の定義、種類、病態、検査について習得する。 音声障害のリハビリテーション（目的、訓練法の理念と手技）について習得する。						
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 音声障害の種類と病態について説明できる。各病態に対応したリハビリテーションの目標、代表的な訓練法の理念と手技について説明できる。 基本的な評価と訓練が実践できる。						
回数	講義内容					準備物(教材)
1	音声障害の概要と言語聴覚士の役割についてICFと関連させながら理解できる					教科書 配布資料
2	喉頭の軟骨・関節・筋肉（内喉頭筋）、内喉頭筋の神経支配が理解できる					教科書 配布資料
3	呼吸発声メカニズムの概要が理解できる（声帯の構造とベルヌーイを含む）					教科書 配布資料
4	サンプル動画を視聴し、正常な発声運動と音声障害の障害像を理解する					教科書 配布資料
5	音声障害をきたす代表的な疾患とその病態が理解できる 1 器質的疾患					教科書 配布資料
6	音声障害をきたす代表的な疾患とその病態が理解できる 2 機能的な病態					教科書 配布資料
7	聴覚印象に基づく評価（GRBASなど）について説明できる					教科書 配布資料
8	音声障害のサンプルを用い、GRBAS評価を実習する					教科書 配布資料
9	評価表を用いる検査、空気力学的検査、内視鏡検査について理解できる					教科書 配布資料
10	代表的な訓練方法とその適応について理解できる ①					教科書 配布資料
11	代表的な訓練方法とその適応について理解できる ②					教科書 配布資料
12	代表的な訓練方法とその適応について理解できる ③					教科書 配布資料
13	無喉頭音声について、原因疾患・医学的治療・リハビリテーションの概要が理解できる					教科書 配布資料
14	気管切開の概要と言語聴覚士の介入について理解できる					教科書 配布資料
15	まとめ					
定期筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第3版						
【準備学習・時間外学習】 授業の復習をしてください。 授業で指定された課題（宿題）を行い提出してください。						
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、 60点以上の場合に単位を認定する。						